

NIIGATA GLOBAL BUSINESS

にいがた グローバル・ビジネス

CONTENTS

2 ソウル事務所

速報:ソウル・2002新潟フェア 韓国で開催
ソウル事務所現地スタッフ雑談 主な活動(8月~10月)

8 大連経済事務所

特集:中国各地の投資環境 [浙江省平湖市経済開発区]
「2002年秋季全国五金商品交易会」
大連ミニ情報「大連城市快速軌道交通」開通
キーワード「熱線電話(ホット・ライン)」 新職員紹介

13 海外進出企業の体験談

その3・中国

15 報告

黒龍江省経済交流促進会議 国際物流ビジネスセミナー

(別紙)お知らせ

日本企業との取引を希望するロシア沿海地方のロシア企業リスト掲載のお知らせ

vol.50

2002.12.16



SEOUL

ソウル事務所

速報：ソウル・2002新潟フェア 韓国で開催

新潟県及び新潟県産業貿易振興協会の主催で、11月13日～14日の2日間、ソウル市江南区三成洞のグランド・インターコンチネンタル・ソウル・ホテルにおいて「ソウル・2002新潟フェア」が開催された。このフェアは、一昨年6月及び昨年10月に同じ江南区の高級デパートを会場として行われた同名の新潟県物産展に引き続き行われたもので、過去2回の物産展方式から、ホテルを会場とした展示商談会方式へと移行し、新潟県産品の輸出のみならず、韓国からの輸入や技術提携・業務提携等、より幅広い経済交流の促進を目的として開催された。



13日午前10時に展示商談会会場前にて、県代表の高橋産業労働部長及び日本側・韓国側後援者や今回の開催に御協力いただいた方々によるテープカットが行われ、2日間のフェアがスタートした。

「展示商談会」には、新潟県から30企業・団体から33人が参加し、自社の商品や技術等を積極的にアピールした。この展示商談会の特徴は、会場内に各企業・団体毎にブースを設置したことで、ブース内で商談を行う他、サンプル品やパネル・ポスターの展示、商品の実演、食品関係では試飲・試食等が行われ、来場した韓国企業に対して効果的・効率的な商品説明・商談が進められた。また展示商談会場前では、企業毎のプレゼンテーション（商品説明会）が併せて開催された。結果として、韓国側から166の企業・団体から約260人が来場し、数多くの商談が行われた非常に盛況な2日間となり、来場した韓国企業との商談を一日中熱心にこなす新潟県企業の姿が多く見られた。

また、同ホテル内別会場で行われた「IT企業交流会」には、新潟県から24企業・団体から36人、韓国からは15企業・団体から25人のIT関連企業が参加し、業界団体からの事業説明、業務用アプリケーション・教育/地域サービス等の専門分野毎に事例発表や個別企業意見交換会が行われ、交流会終了後も引き続き情報交換する新潟県企業と韓国企業の姿が見られた。新潟県から参加した企業・団体は、この交流会の日程に前後して、先進事例地の視察も実施し、多忙ながらも充実した訪韓となったようだ。



13日の夜に開催された懇親レセプションには、両側参加企業・団体の他、新潟県と韓国の交流に御尽力いた

だいている方々にも参加いただき、総勢約200人による賑やかな交流の場となった。関係者の方々の御協力に感謝する場であるとともに、韓国との経済交流を積極的に進める新潟県側の姿勢をあらためてアピールする絶好の機会となった。

(新潟県ソウル事務所長 小林朝幸)

次号では、新潟県から参加・出展した企業の皆様からの感想や商談件数・内容等の実績報告を掲載しますので御期待ください。

ソウル・2002新潟フェアの開催結果概要

1 目的

- 県産品の販路拡大
- 韓国製品の新潟を拠点とした輸出拡大
- 企業間の業務提携・技術提携の促進

2 開催期間

2002年11月13日 ~ 14日

3 会場

- グランド・インターコンチネンタル・ソウル・ホテル
- 展示商談会 : Chrysanthemum (菊) Room
- I T企業交流会 : Iris (あやめ) Room

4 主催

- 新潟県、社団法人新潟県産業貿易振興協会
- (I T企業交流会企画協力 : 韓国ソフトウェア産業協会、新潟市ソフトウェア産業協議会)

5 後援

- 日本側 : 日本貿易振興会 (J E T R O) ソウルセンター、日本商工会議所ソウル事務所、
日本自治体国際化協会 (C L A I R) ソウル事務所
- 韓国側 : 産業資源部、韓日経済協会、大韓商工会議所、大韓貿易投資振興公社 (K O T R A)

6 結果

オープニングセレモニー・テープカット参加者

- 日本側 : 高橋豊 新潟県産業労働部長、中村富安 日本貿易振興会ソウルセンター所長、
會本尚 日本商工会議所ソウル事務所長、石川義憲 日本自治体国際化協会ソウル事務所長、
堅田一久 新潟市ソフトウェア産業協議会長、品田勇 新潟県 I T産業ネットワーク21代表幹事
- 韓国側 : 朴天津 産業資源部亜州協力課長、申栄敏 韓日経済協会理事、大久保孝 ダイヤモンドコンサルティング社長

展示商談会及びプレゼンテーション

- 参加企業・団体数、参加者数 (新潟県側) : 32企業・団体、33人
(業種別内訳)

食品 : (株)港製菓、マルタ味噌(株)、(株)フタバ

日本酒 : 越路商事(株)、玉川酒造(株)、尾畑酒造(株)、美の川酒造(株)、麒麟山酒造(株)、新潟県酒類販売(株)

SEOUL

作業工具：相伍工業(株)、相場産業(株)、トップ工業(株)

ニット：丸正ニットファクトリー(株)、花澤ニット(株)

機械機器：(株)コロナ、SUZAKU、つばでんアイテック(株)、(株)トライテック、オヂヤセイキ(株)、
(有)コンドー商事

ソフトウェア：佐渡国際学院(株)

ハウスウェア：RaDD つばめ物流センター、明道(株)、(株)サクライ、(株)ショウワメタル、藤寅工業(株)

生活関連：高森コーキ(株)、IDS財団、川村庚堂漆器店、(有)ネオ昭和、(有)オヂヤシステムテン、
小池ろうそく店

商品サンプル等：合計336アイテム

食品49（内日本酒26）、ニット80、工具36、機械機器43、ハウスウェア63、生活関連64、ソフトウェア1

参加企業・団体数、来場者数（韓国側）：166企業・団体、260人

IT企業交流会

参加企業数、人数（新潟県側）：26企業・団体、36人

（分野別内訳）

企画協力：新潟市ソフトウェア産業協議会、新潟県IT産業ネットワーク21

業務用アプリケーション：(株)エヌ・ティ・エス、佐渡国際学院(株)、(株)ジェイマック

教育/地域サービス：長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校、信越情報システム(株)

ネットワーク構築/デジコン/ISP：

(有)ブレイク、(有)信越マルチグラフィック、(株)新潟インターネットサービス、

スペック(株)、北陸電々(株)、双峰通信工業(株)、(株)ウェブドゥ、(有)新潟情報機サービス

医療/プロバインド：(株)BSNアイネット、(株)ITスクエア、(株)NS・コンピュータサービス

その他：(有)カツミ商会、(株)多田、小杉興産(有)、長岡商工会議所、FM長岡、早稲田大学、

オープンタイムジャパン(株)

参加企業・団体数、参加者数（韓国側）：15企業・団体、25人

懇親レセプション

参加者数：約200人

英文ビジネスレター講座 ミニクイズ

問題 次の文章を丁寧な文章に書き直してください。（答えは7ページ）

We have made a new production line for electronics.

ソウル事務所で働く現地スタッフの目から見た最新の韓国情報を「ソウル事務所現地スタッフ雑談」としてお知らせします。

今年、酒類の販売が減少

酒類の販売が伸び悩んでいる。これは、健康に対する関心の高まりや、景気低迷への懸念が働いたためと分析される。

今年9月までの酒類の販売動向をみると、昨年より伸びが大きく鈍化した。ビールの販売量は、今年6月の「サッカー・ワールドカップ特需」にもかかわらず、昨年同期より1.49%増にとどまった。焼酎は同期間の販売量が昨年同期比0.5%も減少した。

昨年にはビールと焼酎が前年より7～11%の伸びを記録した。

また、今年9月末までのウイスキーの販売伸び率は13%に達した。しかし、ウイスキーの売上伸び率も例年の半分水準に過ぎない。ウイスキーの売上高は1999年に39%増加したのに続き、2000年（39%）、2001年（20%）にも大幅の伸びを維持してきた。

代表的な大衆酒である焼酎の販売量がマイナスに転じたのは、景気低迷により焼酎の消費量そのものが減少したためだ。特に地方景気の低迷で、地場焼酎の売上高が伸び悩んでいる。

焼酎は酒税率の引き上げに伴う価格の引き上げで売上高が急減した2000年を除いては、年間の販売量が前年比でマイナスを記録したことがない。

特に焼酎は、通貨危機直後の1998年にも販売が小幅（3.6%）増加したことを踏まえると、焼酎会社は最近、通貨危機の際よりも景気が悪化しているとみている。

ビールは、需要期である8月の大雨が決定的な原因だと指摘された。

ハイトビールの金ミョンギユ常務は「ビールの販売が減少した理由は、最大の需要期である8月に大雨だったこともあるが、何よりも景気低迷が主因」と述べた。

ウイスキー会社は、売上伸び率が鈍化したのは、国内のウイスキー市場そのものがすでに頭打ちに

なったためと説明した。しかし、スーパープレミアム（SP）クラスの高級ウイスキーは今年も昨年より85.8%の高い伸び率を記録している。

真露（チンロ）バレンタインズの李ウォンホ常務は「景気見通しが不透明な来年は、国内のウイスキー市場がマイナスまたはゼロ成長が予想される」とし、「不況が長引く場合、再び酒類業界に構造調整の風が吹き込むはず」と展望した。

（課長代理 文 鍾賢）

2002年ソウル市江南区の韓国総合展示場（COEX）の展示会日程（12月～1月）

開催期間	展示会及び行事名
12/ 4 - 8	ソウル国際発明展示会
12/ 5 - 8	第6回職業訓練資格博覧会
12/ 5 - 7	Realtime Embedded & Technology Conference2002
12/ 5 - 8	ソフトエキスポ2002 デジタルコンテンツフェア2002
12/12 - 15	大韓民国ゲーム展
12/12 - 15	2002ソウルオーディオフェア
12/12 - 16	韓医学国際博覧会
12/13 - 15	2002国際美容整形博覧会
12/13 - 15	2002創意工学作品・採用博覧会
12/13 - 15	2002保健産業技術展
12/18 - 20	文化コンテンツ採用博覧会
10/21 - 2/4	展示アマゾン
12/22	トップブレイド 日韓チャンピオン
12/28 - 29	ネイルトーナメント 2002チョスミMY STORY - 冬の夜の告白
2003	
1/ 4 - 2/14	Hellow Dino2003
1/10 - 19	専門大学申込み及び情報博覧会
1/21 - 23	セミコン コリア
1/23 - 26	子供英語博覧会2003

SEOUL

ソウル事務所の主な活動（8月～10月）

新潟県ソウル事務所では

新潟と韓国との企業間の経済交流、技術交流の支援

新潟県の観光資源の紹介と案内

学校、地域、各種団体などの交流の支援

などの分野において様々な活動と情報発信を幅広く行っています。ここでは、最近の事務所の活動から主だったものをお知らせいたします。

《8月》

（19日以前の分は前号に掲載）

県内企業から韓国経済・企業等について紹介があり回答（1件）

秋田・山形・新潟3県合同韓国マスコミ招待事業の実施を支援（7日～20日）

《9月》

県観光振興課川上係長他1名が旅行商品造成事業の説明のため来韓、韓国旅行代理店を訪問。連絡・アテンド・通訳（3日～5日）

新潟フェアの打合せのためダイヤモンドコンサルティング社が来所（12日）

新潟フェアの打合せのためダイヤモンドコンサルティング社を訪問（23日、26日）

新潟フェアの後援依頼で産業資源部亜州協力課を訪問（26日）

新潟県立図書館が友好交流協定調印のため南山図書館を訪問（10月5日～9日）するための連絡調整

県国際交流課のソウル市役所等訪問（10月5日～9日）スケジュール調整

光明(カンミョン)ロータリークラブの白根ロータリークラブ訪問（10月11日～13日）のための連絡調整

朱鷺メッセとCOEXの合意文書作成支援。姉妹提携調印式及び朱鷺メッセコンベンションフォーラム（10月21日～23日）にCOEX安社長が出席するための連絡・スケジュール調整

ソウル市役所職員2名が新潟県庁で研修（2年間）を受けるためのスケジュール調整

新潟県農林水産部森副部長が「2002慶北世界農業フォーラム」（10月20日～23日）に出席するための連絡調整

韓国松坡(ソンパ)中学校が新潟市立藤見中学校を訪問（10月24日～28日）するための連絡調整

抱川(ポチョン)ロータリークラブの姉妹提携先募集のための連絡調整

《10月》

県内企業から韓国経済・企業等に関する紹介があり回答（1件）

新潟県立図書館長（県生涯学習推進課・県国際交流課同行）が来韓。友好交流協定書調印のため南山図書館を訪問、連絡調整・アテンド・通訳で支援（5日～9日）

新潟フェアの参加企業向け事前セミナー開催及び参加企業訪問のため、ダイヤモンドコンサルティング社大久保会長と新潟へ同行。参加企業の内、6社を訪問し、打合せ・工場等視察（6日～9日）

県観光振興課旅行商品造成事業促進のための韓国旅行エージェント招待事業で新潟県内ゴルフ場等を視察、事前連絡・アテンド・通訳で支援（11日～15日）

新潟フェアの協力依頼で、ソウル京仁セーター工業協同組合を訪問（14日）

IT産業クラスター形成促進事業の打合せ及び社長訪問のため、県産業労働部宮崎副部長がサムスンSDS社を訪問、アテンド（15日～16日）

新潟フェアの協力依頼で中小企業振興公団を訪問（17日）

白根風合戦協会がソウル風揚げフェスティバル参加のため来韓、風揚げ手伝い、懇親パーティー同行（19日～20日）

新潟フェア・IT交流会の協力依頼で韓国ソフトウェア産業協会を訪問（21日）

城南市内デパートでの実演販売のため、港製菓高橋社長が来韓、お好みハウス・チャン社長と来所（21日）

新潟フェアの打合せのためダイヤモンドコンサルティング社を訪問（21日）

朱鷺メッセとCOEXの姉妹提携調印式及び朱鷺メッセコンベンションフォーラム開催のための連絡調整・スケジュール調整、COEX安社長の新潟視察・出席をアテンド・通訳等で支援（21日～23日）

ソウル保健大学日本語科の大学祭展示に協力（21日～23日）

新潟市郷土歴史博物館開館準備のため、新潟市歴史文化課が来韓、蔚山市を訪問。連絡・アテンドで支援（21日～24日）

新潟フェアの協力依頼で韓国食品輸出入協会を訪問（22日）

韓国松坡（ソンパ）中学校の新潟市藤見中学校訪問を連絡調整。アテンド・通訳で支援（24日～28日）

新潟フェア・IT交流会の打合せでサムスンSDSが来所及びサムスンSDSを訪問（28日、30日）

新潟東港物流団地提案のため、産業労働部高橋部長来韓時の現代自動車本社訪問日程を調整
村上市電気工事組合のソウル市内電気通信施設視察（11月1日）のため、視察先等調整
塩沢町観光協会が韓国スキー事情視察（11月18日～21日）で来韓するため、視察・訪問先等の連絡調整

県農林水産部森副部長が「2002慶北世界農業フォーラム」（20日～23日）に出席するための連絡調整

抱川（ポチョン）ロータリークラブの姉妹提携先募集のための連絡調整

光明（カンミョン）ロータリークラブの白根ロータリークラブ訪問（11日～14日）のための連絡調整

<活動の中から>

10月24日から28日の4泊5日の日程で、新潟市立藤見中学校との姉妹校交流のため、韓国ソウル特別市にある松坡（ソンパ）中学校の生徒30名を含む総勢38名の訪問団が新潟市を訪れました。

藤見中学校と松坡（ソンパ）中学校の両校は1995年に姉妹校になって以来、相互訪問を続けていますが、本来であれば今回の訪問は昨年に行なわれるはずでした。

残念なことに昨年は歴史教科書問題の影響で中止になってしまい、1年遅れの今年ようやく実現したものです。

今回訪れた松坡（ソンパ）中学校の訪問団38名のうち生徒30名は、全員藤見中学校の生徒の家庭にそれぞれホームステイをしました。

また、藤見中学校の文化祭の期間に合わせての訪問ということで、10月25・26日の両日に行なわれた文化祭では、「浴衣の着付け」や「餅つき」など、日本の伝統文化に触れるイベントや、松坡（ソンパ）中学校の生徒によるテクオンドの実演などの催しもあり、両校の生徒とも大変有意義な時間を過ごしたようです。

はじめは言葉が通じないため、お互いになかなか打ち解けず緊張していたようですが、一緒に生活しお互いの文化に触れることによって、だんだんと緊張もほぐれ友情を深めていったようです。

今年は6月にワールドカップサッカー大会が日韓共催で行なわれ、また「日韓国民交流の年」にもなっているなど日韓両国の間は今まで以上に親密なものになっています。

そうしたなかで行なわれた今回の姉妹校交流で、交友を深めた皆さんがお互いのことを正しく理解し、身近な存在として感じてもらえるようになれば、日本と韓国も今以上に近い国になるのではないかと思います。

（地域交流課長 小柳昌史）

DALIAN

大連経済事務所

特集：中国各地の投資環境

今回は、上海に隣接する浙江省平湖市経済開発区の調査レポートをお送りいたします。

1. 上海に近接する平湖経済開発区

中国で最も高い経済成長を遂げている地域の一つは、上海を中心とした長江デルタ地域である。この地域では、上海市を中心にしてその周辺都市へと経済発展区域を広げている。その背景としては、諸事コストのかかる上海市内を避けることと、高速道路網の整備により、アクセスが便利になってきたことなどがあげられる。寧波、蘇州、杭州、無錫などが有名であるが、こうした周辺都市よりも立地条件が良いにも関わらず意外と知られていないのが、今回取材した「平湖経済開発区」である。取材のため平湖市を訪れたところ、副市長、副書記をはじめとする市政府の貿易、経済関係の幹部がずらりと顔をそろえていた。日本企業の誘致に対する熱い思いが伝わってきた。



平湖市経済開発区説明会



譚 副書記(中央) 鮑 副市長(右)

DALIAN



2. 平湖市概要

平湖市は、上海市内から南西へ約90km、車で約1時間の距離に位置し、南は杭州湾に接している。杭州湾には、国家一級レベルの対外開放港である嘉興港(旧称：乍浦港)があり、5万トン級の船が入港可能である。四季がはっきりしており、年間平均気温は16度。面積約537平方キロメートル、人口50万人の中国としては比較的小じんまりとした都市である。

平湖市内から上海虹橋国際空港までは約80km、上海浦東国際空港までは約120km、杭州蕭山国際空港までは約100kmであり、全て高速道路で結ばれている。今年の5月から杭州湾を横断して平湖と寧波を結ぶ跨海大橋の建設が始まった。投資総額107億元(約1,600億円)、全長36kmという大規模なもので、2006年までに完成する予定である。特に、教育には力を入れており、9年間の義務教育の修業率は97パーセントである。

基本的生活環境：大学1、職業技術学校5、病院5
四つ星ホテル(聖雷克ホテル)



嘉興港(旧称：乍浦港)



伊 港務局主任

3. 平湖経済開発区

平湖経済開発区は1996年に創立された省レベルの開発区である。外資系企業は約30社で、このうち日

系企業は15社となっている。開発予定面積は32平方キロメートルでこの中には、ハイテク産業地域が含まれている。同区は、「六通一平」という基本施設が整備済みであり、これから「八通一平」を目標として整備が進められる予定である。今後は、繊維、機電、カバン、製紙を中心とする近代化の工業団地を目指している。

六通一平：基本的なインフラ整備のことで、六通は、通路、通水、通電、通信、排水、汚水処理、一平は、土地の補修である。供熱、ガスが加わって八通になる。

平均給料：作業員600元/月、技術員800元/月、管理員1,000元/月

4. 現地日系企業から見た平湖

A社

業種：マイクロレンズ成型製造

設立：2001年 企業形態：独資企業

資本金：500万米ドル 従業員：361名

主要製品：マイクロレンズ、精密メカユニット組立
ほか

主要取引先：日本の家電メーカー

特記事項：製品は今のところ全量輸出、いずれは中国内販も視野に入れている

同社は、マイクロレンズ成型、光学精密部品成型、光学精密レンズユニット組立、精密メカユニット組立を中心とする独資企業である。7～8割の製品は上海港を経由して日本に輸出、残りは国内市場向になっている。従業員は約360人で、このうち日本人は総経理を含めて6人。平均年齢は23歳という若さで、女性が約9割を占めている。地元の平均給与は、410元/月程度だったが、大手日系企業が進出した後は、500～600元/月が相場になっている。

平湖を選択した理由は、土地が安く、インフラ施設も整備されていること、上海に近くて交通も便利で将来性があることで、なによりも大きな理由になったのは、書記長が外資企業の勧誘に意欲的だったからとのこと。そのせいで驚くほど仕事が早いそうだ。実際2001年12月20日に、営業許可の申請を行ったが、翌年の1月21日には営業許可が出され、7月

DALIAN

には稼働を開始している。事業運営していく上で生じるさまざまな問題については、市政府を通じて解決することができる。ここでは、日系企業と市政府の幹部が「ツーカー」の仲になっているようだ。

平湖に進出してよかった点は、人件費の削減につながったこともさることながら、日本人にはないガッツを現地従業員が持っていることとのこと。総経理は「最近の日本人従業員は残業を嫌がる傾向にありますが、ここではそんなことはなく、積極的に残業に応じてくれます。運転員でさえ積極的に日本語を習得しようと努力しています。こうした人材がいる限り、この地域は今後さらに発展していくと思っています。」と総括している。

B社

業 種：電磁鋼板表面処理、加工、販売

設 立：1994年 企業形態：合弁企業

資 本 金：872.2万米ドル 従業員：230名

主要製品：各種電磁鋼板、電磁鋼板プレス製品ほか

主要取引先：中国国内日系家電メーカー

特記事項：電磁鋼板のセーフガード発動により、中国で原材料である日本製特殊鋼板の入手が困難になってきている。

同社は、1994年に設立された会社で、鉄鋼製品の製造、販売を行っている。主に日系の家電メーカーを対象として出荷しているが、一部台湾系の企業にも出している。従業員は230人で、平均年齢27歳。1年更新の契約となっている。当初は、即戦力になる人材が少なく、特に、中間管理職が見つからずに困ったようだ。日本語人材については、上海から雇い入れている。給料は、初任給が700元程度で中間管理職は2,000～3,000元程度である。地元から採用して根気強く育てていく方針をとっていることから、一部の管理職を除いて、ほとんどが自宅から自転車で通勤している。日本人スタッフは5人となっていてコストがかかるが、その分、きめ細かいサービスができているとのこと。事業は順調に進んでいるようで、第一工場はすぐに手狭になり98年に増資し、翌年には第二工場を稼働させている。現在、第三工場の設立を予定している。

平湖進出のきっかけは、海外加工センターというものは、他社の後追いばかりしていてもうまくいかないと考え、日系企業の進出がほとんどなかった開発区を選択したとのこと。顧客の多くは、上海、蘇州、杭州にあるが、平湖からこれらの都市へは1時間程度でいける絶好の位置にある。更に、原材料の輸入は、すぐ近くにある嘉興港を利用することができる点を評価している。平湖市政府の対応も熱心で、何か問題が起こってもすぐに対応してくれるとのこと。平湖市には焼肉料理店を含めて日本料理の店が6件あるなど、生活をする上で不自由がないことがなによりとのこと。



日系企業工場内（B社）

（所長 庭野芳樹）

「2002年秋季全国五金商品交易会」

本交易会は、1952年から毎年春と秋の年2回開催されている「中国最大の金属製品見本市」で、今回の昆明開催（雲南省）で102回目を数える。ここ数年間、毎年春は「北京」、秋は「上海」をベースに地方へ回すようなローテーションを組んで開催されており、昆明での開催は今回が初めて。従来からの業界関係者はもとより開催に関係のない来場者による地元経済効果も見込めるといったメリットも想定し、昆明での開催に至った模様。しかし、「農産物」メインの土地柄のためか、出展者からは「例年と比較して客足が少ないようだ」との声も聞かれた。

会場となった「昆明国際貿易中心」は、昆明国際空港より10分、市街地からも15分と好立地。広大なスペースを十分に生かした演出がなされており、照

明をはじめ各種設備も整っていたように感じられた。



会場風景

今回の昆明開催でも三条市貿易振興会から3社が出展し、高品質な日本製品は多くのバイヤーの注目を集めていたが、中国製品も海外からの製造技術導入により年々品質が向上しているのも事実。県内企業関係者からは「出展頻度を多く持つ中でブランドイメージの向上と高品質の売り込みを図りたい。安易な価格競争によるブランドイメージの失墜だけは死守したい。」と、中国におけるマーケット開拓の難しさについて話す場面も見られた。

具体的な展示品としては、ドライバーやペンチ等の一般作業工具をはじめ、電動油圧工具・小型工作機械等が主で、中国内外から900社余りが出展、約1万種類の商品が展示された。また、主催者側の発表によると、開催3日間の来場者数は約4万人、成約額は10億元（日本円で約150億円）と盛会に幕を閉じたとのこと。

今後のスケジュールは、来年5月に北京（北京中国国際展示場）、10月に武漢（武漢国際会展中心）で開催される予定。



展示ブース

（副所長 加藤正明）

大連ミニ情報

「大連城市快速軌道交通」開通

「大連城市快速軌道交通」が11月8日に正式オープンした。日本語読みではさっぱり意味が分からないが、要は電車のこと。これは大連市が21.6億元（約320億円）を投じ建設した快速電車路線であり、市内中心部の香炉礁駅から大連経済開発区、保税區、DDポートを經由し、終着駅の金石灘国家リゾート駅までの10の駅（総距離46.2km）を50分で結ぶものである。



始発駅「香炉礁駅」

列車は4両編成で、全長80メートル、176席、最大約千人が乗車可能で最高時速は100kmとのこと。車両も外観上は日本のと変わらず、クーラーや座席ヒーターはもちろんのこと、現在の速度を示すスクリーンも付いている。また、車両自体も大連製（大連機車車両工場製）である。



昨今、中国沿海都市部では、車社会の到来による渋滞が問題視されており、ここ大連でも朝晩渋滞が目につくようになってきた。故に、市政府側でも、この電車の開通による交通渋滞の緩和を見込んでいる。またその他にも、大連市内 - 大連経済開発区、

DALIAN

保税區等の区間における乗り継ぎが便利になることで投資環境の改善をもたらす効果も大きいと考えている。

将来的には同区間を10列車運行させ、8分毎に発着させる予定とのことであるが、残念ながら今のところ3列車70分間隔の発着のため、まだまだ便利とはいえない。しかしながら、片道30kmもある市内と開発区を行き来する人々にとっては役立つようだ。



現在、中国各地で鉄道整備計画が進んでいる。上海に建設中のリニアモーターカー（来年開通予定）、上海新空港、上海市内間 50kmを結ぶ

キーワード

熱線電話（ホット・ライン）

先日、上海出張時にタクシーの中で流れていたラジオ番組を何気なく聞いていて気づいたことがあった。

内容は、ある男性が、先日スーパーで購入したガスレンジに関することで、使っているうちに五、六回壊れ、その都度修理に出すものの、結局直らないことから、ラジオ番組を通し修理屋を探してもらうというものであった。

考えてみると、昔はこのような番組は無かった。3、4年前より自分一人では解決できない様々な問題をメディアを通し解決する一種の消費者保護番組が増えてきている。そしてこの様なメディアに救いを求める電話のことを中国では熱線電話（HOT LINE）と呼ぶようになった。

かつては物を購入後、仮に壊れてもメーカー保証を受けられないことも多く、消費者は泣き寝入りするしかなかった。特に電気製品を購入する際には、必ず電気を入れ、正しく動くか購入時に念入りに確

認する必要があった（今でもこの習慣は残っているが）。

経済発展が急速に進む中国だが、各種サービスの面においてはまだまだ十分とはいえない。このようなHOT LINEを通じて、様々な問題を解決してゆくことでサービスという概念が定着し、更に人々が豊かな生活を送れるようになればと思う今日この頃である。

（主事 王飛）

新職員紹介

副所長（代表）

加藤 正明

～第四銀行から～



6ヶ月間の中国語研修を終え、10月1日付けで第四銀行より新潟県大連経済事務所に出向して参りました。半年前、中国駐在を打診された当初は恥ずかしながら「大連」という地名すら知らなかった私が、今その地に存在していることが未だに信じられません。都市の再開発や整備が進む近代的な市街地や躍動感溢れる人々の日常生活を目の当たりにし、日本では得ることのできない刺激と感動を受ける日々を送っています。昨年12月のWTO加盟を果たし、今後も秒刻みの成長が期待される巨大マーケット「中国」に駐在できることを光栄に思っております。

今や世界経済の発展においては欠くことのできない存在となった中国で「有効かつ実効的なリアルタイム情報の提供」や「経済的・人的な交流の促進」など様々な活動を通じて皆様のタイムリーなニーズにお応えできるよう微力を尽くす所存でございます。

どんな事でも構いませんので、是非お気軽に当事務所をご利用ください。そして、皆様方からもご指導を賜りますよう心からお願い申し上げます。

REPORT

海外進出企業の体験談
その3・中国

F&R Co., Ltd.

今回は、日ごろから当事務所もお世話になっている新潟県内企業「F&R Co.,Ltd.」の岩田社長に、10年にわたる中国での貴重な経験談をお話いただきましたのでご紹介させていただきます。



F&R Co., Ltd. 岩田社長

< 新潟の片田舎から大連へ >

バブルがそろそろ崩壊しようかという1992年8月。それまで経営に携ってきたホテルを売却し、大連に渡りました。それまで1986年頃から毎年のようにオフの1月～3月には中国に旅行に行った経験もあり、故郷であらたに何かをするよりも中国でなにかができないかという思いが年々高まっていたことが中国に渡る動機になったと思います。

初めは大連の東北财经大学で10ヶ月ほど中国語を学んだ後、築地・大阪の友人を頼って単発的に貿易の真似事を始めました。93年春、たまたま大連理工大学傘下の東方学院の日本語教師が病気になったことから、代用教員として中国人学生相手に日本語を教えるようになり、二足のわらじを履くことになりました。ここでの経験も、今思えば大変貴重なものだったと感じています。

95年、出身地の糸魚川の先輩諸氏から「貿易の仕事をしているのなら、いっそのこと正式に会社を作ったらどうか？」というアドバイスがあり、当時は第2次中国ブームということも重なって、将来を考え、会社設立を決心しました。

しかし、ホテル経営については経験がありましたが、本格的に貿易業務をやるにはあまりにも素人に過ぎました。このため3年間は赤字で苦しみました

が、4年目からなんとか黒字にすることができ、今に至っています。

< ガラス張りの仕事で信頼を勝ち取る >

ところで、現在の弊社の仕事内容は一般貿易業務とは違い、いわば日本の中小企業のみなさまの中国での連絡事務所というスタンスで業務を行っています。ですので、中国側メーカーの価格等の条件はそのまま日本側へ伝えます。また、生産時には弊社の社員が工場に滞在し、生産工程から検品業務を行います。中国国内の運送及び輸出入手配も弊社が手配し、CY（コンテナヤード）内での積み下ろし等にも様々なチェック項目をチェックしながら発送します。弊社手数料は委託手数料として日本決済で清算します。今では複数年契約をしていただき、委託費を固定して契約していただける会社が増えてまいりました。中国側にも日本側にもガラス張りにすることにより、新商品開発にも有利に働き、スムーズな生産・仕入計画が立てられ、両者からの信頼を得ています。

< 3万件に近い企業データベースが宝 >

中国は強烈な縦割り社会であり、客観的な情報ソースを手に入れるのはそう簡単なことではありません。弊社は長年の展示会業務等で得た企業内容をデータベース化し、中国東北部・河北省・山東省を中心とした3万社近いデータがあります。日本からの問い合わせについての初期調査はこのデータを手がかりに始めます。初期調査についての費用は通信費程度しか掛かりませんので、NGBをごらんの県内企業の皆様には大いに利用していただければ幸いです。もっとも中国企業も栄枯盛衰が激しく、データのメンテナンスには苦労しますが…。

< 中国人の考えを知る >

スタッフは日本人の私と中国人の男性4人、女性1人の小所帯です。男性スタッフの中には以前、私が日本語を教えていたクラスの者もいます。

中国語で「吃苦」（チークー）という言葉があります。「苦しみを食べる」「どんな苦しいことにも

REPORT

耐えられる」という意味です。我社のスタッフにはいわゆる目から鼻に抜けるような頭の回転の早いものはいませんが、遠く内陸の工場から大連の港まで千数百キロをトラックの相乗りで戻っても平気な者ばかりです。

日本はデフレ傾向が強まり、多くの企業で減給等がはじまっています。いろいろな現象を見ると「みんなで振り出しに戻って、質素にやり直していこう」ということなのでしょう。ところが、日本でもかつてそうであったように、最近の中国でも若い人がスマートな仕事やステイタスを求め、楽しんで儲けようと今や東西奔走しています。

いろいろな中国人がいますが、一般的に言って中国人は日本人にとってまったく異なる外国人であることは間違いありません。同じ漢字を使用し、同じような顔付きをしていますが、その歴史的風土からくる差は抜きさしがたいものが有ります。

そうした中国人の物の考え方については、今の妻から学んだことが多いように思います。以前大学で中国語を勉強していた際の先生が、現在の私の妻です。今でも東北財経大学国際交流中心で各国の留学生に中国語を教えていますし、私にとっても、時折いいアドバイスしてもらえる良きパートナーです。

<ニュー・アジア・ジェネレーションの台頭>

今後も引き続き中小企業の貿易・投資サポート・コンサルタントを拡大していきたいと思っていますが、これら以外に各界の協力を願って、少しずつ力を入れてゆきたいのが日本の青年たちへの中国語教育です。

今、東アジア（日本、韓国、台湾、香港、シンガポール、中国）においては国境感覚が希薄で、英語・広東語・北京語等々を自由に操り、友人たちと連携しながら、自由自在に活躍する若者たちが徐々に台頭してきた感があります。その象徴はこれら地域のメディアが現わしています。CNN、香港スターテレビ、CNBC等々はアジアのほとんどの国々を同時カバーしているため、それら国々においての若者文化のタイムラグは、現在ではほとんど無くなっています。インターネットの爆発的普及もそれに寄

与していることでしょう。彼らはイデオロギーとか生活習慣の差とかの既成概念にはまったく囚われず、自由な発想で起業活動をしています。それは青年であるからこそその目標達成へのモチベーションの高さからくるものと思います。

「ニュー・アジア・ジェネレーション」とも呼ぶべき彼らの出現には、個人的に大いに期待してはいるのですが、日本の若者がその中に極めて少ないことが残念でなりません。でもこうした若者たちこそが、今後のアジアひいては世界を背負ってゆくのはまず間違いのないことと思います。

今後、わたしの出身の糸魚川にて行政・商工会議所・民間企業に協力を仰いで、学校教育・市民講座に中国語教育を開き、大連の高校・大学との提携も含めた形で、ニュー世代の育成を行ってゆくつもりです。それは海外に多くの親しい友人を持つことがなによりの個人の財産になるからです。

<情熱とモチベーションが必要>

これからはどうか分かりませんが、少なくとも現在の中国は、ある意味で日本と比べ極めて自由な経済活動が可能な国であることは確かです。WTO参加もそれに拍車をかけています。例えば、小さな食堂のマスターがこちらに来て、レストランを開店するのも以前に比べ簡単です。上海では市政府に2,000元（約3万円）で登録すれば、誰でも自由に商売ができます。こうした傾向は益々他の都市へ広がりつつあります。

歴史は繰り返すといいますが、この中国東北地方においては、かつて110万人以上の日本人がいた時代があったということは紛れもない客観的な事実です。

中国の方が日本国内で働く、日本人が中国国内で働くということは自然の流れだと思いますし、今の私にとっては何ら違和感のあることではありません。

「人・もの・金それに情報」はこれからは、今以上にダイナミックに、また益々複雑に激しく流れてゆくでしょう。こんな中では自らの情熱とモチベーションを維持してゆくことが大事になってきます。そのためにも健全なパートナーシップを構築してゆく相手として、中国・中国企業・中国人があるわけ

で、共になにかを創造してゆくという観点をもつことが、それらを維持・高揚させるために必要なことではないかと思えます。

<日本企業へのメッセージ>

大連にも永年日中間の取引に関わってきた先輩諸氏が少なからずいます。彼らに共通していることは実に自然体で毎日の業務・生活をこなしていることです。

外国だからと言って、取りたてて何か特別のことができるはずもないわけで、民族・言語・膚の色が違って、絶対に変わらないのが人間の本質なので、まず、相手を見極め、受け入れる態勢で臨むのがこうしたベテランの自然体に繋がっていると思います。現在投資を計画あるいは将来中国に投資をお考えの皆様には、こうした方々に会って、いろいろお話を伺うことも大切なことと思えます。

報告

「新潟県・黒龍江省経済交流促進会議」が開催されました

去る11月21日に中国黒龍江省ハルビン市において「黒龍江省・新潟県経済交流促進会議」が開催されました。この会議は新潟県と黒龍江省との経済交流の活発化を目的に1988年に第1回が開催されて以来、今回で14回目を迎えます。今回の会議では新潟県側から技術協力、物流、観光、イベントなどについて9件の議題提出を行い、黒龍江省側からは商談会、技術協力、研修生など6件の議題が提出され、各議題について熱心な討議が行われました。

特に、黒龍江省側から来年1月6～11日にハルビン市で開催予定の「中国国際冬季体育用品・冬季服装展覧会」や来年4月に東京で開催予定の「黒龍江省（日本）投資貿易商談会」の紹介があり、新潟県企業からも多数参加して欲しいとの要望が出されました。なお、4月の東京での商談会に併せて、新潟でも小規模な経済貿易商談会が開催される予定であ

り、詳細が決まりしだい皆様にお知らせします。



国際物流ビジネスセミナーの開催

平成14年11月1日、新潟ワシントンホテルにおいて、標記セミナーが開催されました。

トヨタ自動車(株)物流企画部長の南康氏からは、「トヨタの国際戦略とグローバルロジスティクスの構築」をテーマに、トヨタが世界を舞台に展開する物流戦略についてお話いただきました。



グローバル化により部品の納入先が世界各地に広がっていくにしたがって、長く細くなる物流網に対して、物流拠点を有効に活用し、小ロットで多頻度かつ満載にした輸送や、徹底的なリードタイムの短縮等により、人・物・コスト・物流をミニマム化することがトヨタの「ジャスト・イン・タイム方式」の物流であり、地球環境や交通渋滞にもやさしい取り組みであるとお話でした。

引き続き、(株)日通総合研究所経済研究部研究主査の佐藤信洋氏から「国際物流の今後の動向と新潟東港の物流拠点形成に向けた取り組み」をテーマにお話いただきました。

参加者からは、世界を舞台に活躍するトヨタとは規模は違いますが、物流に対する考え方は非常に参考になったという声が多く聞かれました。

N I I G A T A G L O B A L B U S I N E S S S U P P O R T

新潟県ソウル・大連経済事務所サポートサービスについて

当事務所では企業間交流促進に向けたより具体的な支援を行うため、以下のサービスを実施しておりますので、県内企業の皆様の御活用をお願いします。

地域・都市情報FAXサービス

ソウル・大連を中心とした韓国・中国の都市、地域等の状況が掲載された総合情報を整理し、FAXにより無料で情報（地域限定）を提供いたします。

〔内容〕1項目についてA4、1～3ページ程度

契約ホテル優待利用サービス

当事務所と契約を交わしているソウル・大連を中心としたホテルの価格等優待サービスが受けられます。予約は当事務所で代行いたしますが、契約外のホテルや航空機等交通機関の御手配などはお受けかねますので御注意願います。

ビジネス文書翻訳支援・転送サービス

本県と韓国・中国の企業間における引合書や依頼文などの文書を無料で翻訳し、韓国・中国側に対するものについては転送までをフォローいたします。

ただし、原則として原文がA4用紙で2枚までとし、内容によっては翻訳の対象外とさせていただくことがあります。また、翻訳内容に関するトラブルにつきましては、その責を負うものではないことを御留意願います。

出張者用スペース提供サービス

短・中期でソウル・大連に出張してきたビジネスマンに対して事務所内の机、椅子を無償で貸与します。また事務所内の新聞、書籍等の閲覧、打合せスペースや会議室等の御利用も可能です。

以上のサービスにつきましては、新産貿事務局または当事務所に御希望内容をお伝え下さい。内容に基づいたサービス利用の御案内をお送りします。

S
U
P
P
O
R
T

新潟県ソウル事務所
ソウル特別市中区南大門路2街118
海運センタービルディング本館1609号
郵便番号：100 - 770
TEL：+82 - 2 - 773 - 3161
FAX：+82 - 2 - 773 - 7464
（ホームページ）<http://www.niigata.or.kr>
（メールアドレス）kobayashi@niigata.or.kr

新潟県大連経済事務所
大連市西崗区中山路147号 森茂大厦13階
郵便番号：116011
TEL：+86 - 411 - 3695458
FAX：+86 - 411 - 3695470
（ホームページ）
<http://www.niigata-bnp.com/dalian/index.htm>
（メールアドレス）niigatao@mail.dlptt.ln.cn



新潟県

発行 新潟県産業労働部国際経済課
編集 社団法人 新潟県産業貿易振興協会
〒950 - 8570 新潟県新光町4番地1 新潟県産業労働部国際経済課内
TEL 025 - 280 - 5250
FAX 025 - 285 - 7016
E-mail s050090@mail.pref.niigata.jp
産業労働部ホームページ <http://www.pref.niigata.jp/sangyou/> にいがたビジネスネットプラザ <http://www.niigata-bnp.com/>
印刷 株式会社 第一印刷所



古紙配合率100%再生紙を使用しています